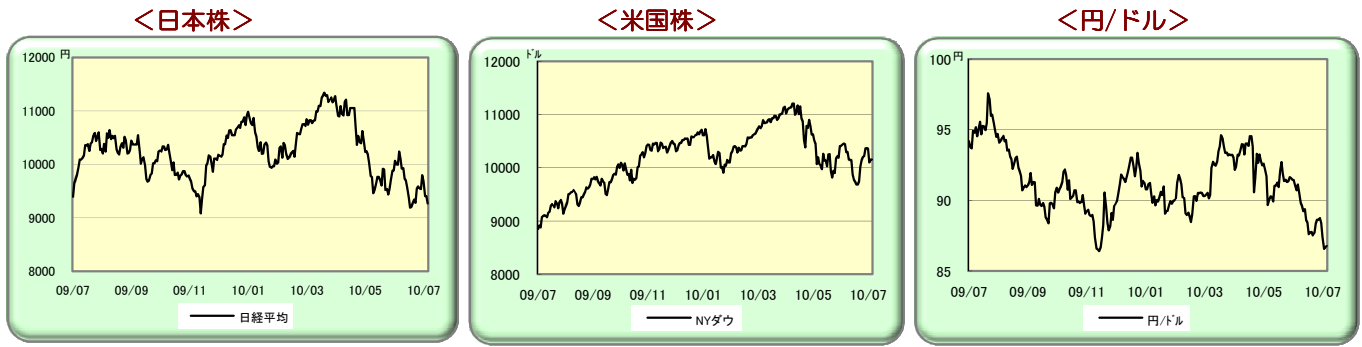


1. 日米株式と円/ドルの推移 (チャートは過去1年)



| | 単位 | 2009/12/31 | 2010/6/30 | 2010/7/16 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|------------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 10,546.44 | 9,382.64 | 9,408.36 | 18,223.04 | 2007/7/20 | 6,994.90 | 2008/10/28 |
| NYダウ | ドル | 10,428.05 | 9,774.02 | 10,097.90 | 14,198.10 | 2007/10/11 | 6,469.95 | 2009/3/6 |
| 円/ドル | 円 | 93.02 | 88.43 | 86.57 | 122.43 | 2007/7/20 | 84.83 | 2009/11/27 |

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

2. 日本株市場の振り返り

| | |
|---------|---|
| 先週の振り返り | <p>＜米国の景気減速懸念や円高の進行などを背景に週末にかけて反落＞</p> <p>先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲176.96円(▲1.85%)、TOPIXが▲20.63ポイント(▲2.40%)と反落しました。業種別(東証33業種)にみると、空運業のみが上昇する一方、その他32業種は下落しました。11日に行われた参議院選挙において、民主党が議席数を大幅に減らしたことを受けて菅政権の求心力が低下する中、再び政権運営の停滞が懸念される結果となりました。こうした中、日本株市場は週明け12日から13日にかけて後場に入って下げ足を強める展開が続きました。それでも14日は、朝方米国で発表された半導体最大手インテルの2010年4-6月期の決算が事前予想を上回る内容となったことを受けて、日経平均は前日比170円強高く寄り付いた後、終日高値圏で推移しました。しかし、その晩の米国株市場では、インテルの好決算によるプラス面と、同日発表された小売売上高(6月)が事前予想を下回り米国の景気減速懸念が高まったことによるマイナス面が相殺し、上値の重い展開となり、為替市場では、米国の景気減速懸念の高まりを背景に円高ドル安が進みました。こうした流れを受けて15日の日経平均は前日比100円近く安く寄り付いた後、終日安値圏で推移しました。また16日には、米国の景気減速懸念に加え、87円前後まで円高が進行したことなどから、引けにかけて9,400円前後まで下落する展開となりました。</p> |
|---------|---|

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 前回 | |
|-------|-----|------|----------------------------------|----|-------|
| 7月20日 | Tue | 米国 | 住宅着工件数(年換算) | 6月 | 593千件 |
| 7月21日 | Wed | 米国 | バーナンキFRB議長、上院銀行委員会での半期金融政策報告 | | |
| 7月22日 | Thu | 日本 | 20年利付国債入札 | | |
| 7月22日 | Thu | 日本 | 全産業活動指数(前月比) | 5月 | 1.8% |
| 7月22日 | Thu | 米国 | 景気先行指標総合指数 | 6月 | 0.4% |
| 7月23日 | Fri | EU | 金融機関91社を対象としたストレステスト(健全性審査)の結果公表 | | |

| | | |
|---------|----|---|
| 決算発表予定他 | 日本 | 決算発表 (4-6月期): 7/23 KDDI |
| | 米国 | 決算発表(4-6月期): 7/20 ゴールドマン・サックス・グループ、バンク・オブ・ニューヨーク(BNY) メロン、ステート・ストリート、ヤフー、アップル、ジョンソン・エンド・ジョンソン 7/21 モルガン・スタンレー、ウェルズ・ファーゴ、ブラックロック、クアルコム、スターバックス、コカ・コーラ 7/22 マイクロソフト、アマゾン・ドット・コム AT&T、3M、セロックス、アメリカン・エキスプレス 7/23 マグナドール、ハネウェル・インターナショナル、ベライゾン・コミュニケーションズ |

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

4. 日本株市場の見通し

| | |
|--------|--|
| 今週の見通し | <p>＜下値模索の展開が続く＞</p> <p>今週の日本株市場は、円高ドル安の進行や米国の経済指標・業績発表及び欧州のストレステストに対する不透明感などから、下値模索の展開が継続すると考えています。指標では、米国で20日に発表される住宅着工件数や22日の景気先行指標総合指数が、4-6月期の決算発表では、米国で週前半に発表される大手銀行や、20日のヤフー、アップル、22日のマイクロソフト、アマゾン・ドット・コムに注目していますが、経済指標では減税措置の反動が継続している住宅関連や、企業決算では20・21日に発表される投資銀行としての色合いが強いゴールドマン・サックスやモルガン・スタンレーが、市場の予想以上に悪化する可能性が高いことには注意が必要と考えています。ただ、週末の欧州のストレステストの発表で当面の不透明感が払拭されると想定されることや、指標としてみている欧州の証券会社の先物の売りポジションが依然として大きく積み上がっていることなどから、売り一巡後は来週にかけて反発する展開を予想しています。</p> |
|--------|--|

本資料は、朝日ライフアセットマネジメント(以下、当社といいます)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。